

# 特定非営利活動法人AMDA 国際医療情報センター

第51回第一生命保健文化賞 厚生大臣賞 NHK 厚生文化事業団賞 朝日新聞厚生文化事業団賞  
 第14回東京弁護士会人権賞 (以上平成11年)  
 第1回読売ブルデンシャル福祉文化賞奨励賞 (平成16年)



2016.10  
 No. 97

# News Letter

在日外国人に日本人と変わらない医療を

## ● 巻頭特集

### 医療通訳者による、医療通訳者のための

平成 28 年 8 月 27 日、28 日、東京で開催された第一回医療通訳者セミナーに参加してきました。簡単な内容、講師やパネリストについては以下をご参照ください。

医療通訳とは何か？、在日外国人の動向	森田直美、大野直子
多様な医療通訳現場とその現状	池上みゆき、福井ユミ、若松香織、天田麻里、藤山暁虹、山田紀子
第一分科会 医療通訳システムづくりの方法と課題	西村明夫、岩本陽子、李裕美、五十嵐桂子、宇藤美帆
第二分科会 効果的な学習会と学習方法	森田直美、Gwendoline Mills、Janelle Moross
第三分科会 自己管理・セルフケアを知ろう	村松紀子、鶴田光子、久次奈美
招待講演	澤田貴志、三宅邦明
分科会報告	—
参加者との ディスカッションと質疑応答	—

これまで行われてきた医療通訳研修は、主催者が NGO、国際交流協会、語学学校と違っていても、いずれも講師は医師、看護師などの医療従事者や、医療以外を専門とした通訳者、大学の教諭、あるいは外国人患者当事者といった医療通訳を使う側の求める医療通訳像を満たすための内容となっていたのではないのでしょうか。もちろん客観的な目も必要なので、それが悪いことだと思っている訳ではありません。しかしながら、実際に医療通訳を頻繁に行っている医療通訳者自身が、医療通訳者のために、自分たちが何を学んでいく必要があるのか、そのためにはどうすればよいのか、を考える場があれば参加したいとここ数年思っておりました。医療通訳経験者が増えてきて、今回このようなセミナーが開催されたことは喜ばしいことだと考えます。

医療通訳を長年されている方、日本だけではなく他国での医療通訳経験をお持ちの方、これから医療通訳をしたいと考えている方、日本で医療観光に関する仕事をしたい方と参加者は様々でした。

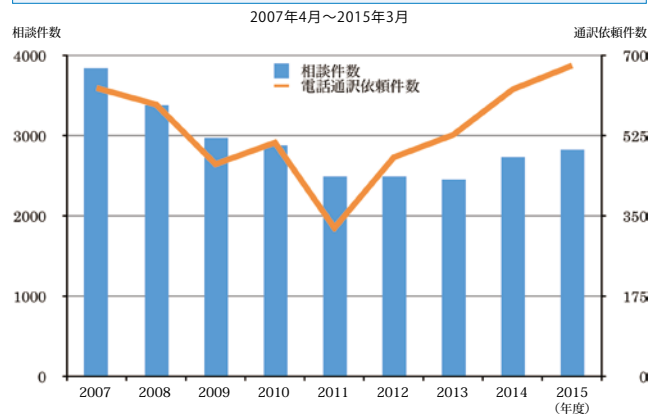
## ● 活動・サービス内容

センター東京 電話番号: **03-5285-8088**

### ● 対応言語および時間

英語・中国語・スペイン語・韓国語・タイ語: 毎日 9:00 ~ 20:00  
 ポルトガル語: 月、水、金曜日 9:00 ~ 17:00\*  
 フィリピン語: 水曜日 13:00 ~ 17:00\*  
 ベトナム語: 木曜日 13:00 ~ 17:00\*  
 \* 祝日を除く

年度別相談件数・通訳依頼件数



上記の表は、当センターへの 2007 年度から 2015 年度までの総相談件数と、電話通訳の依頼件数です。相談件数が減っていた時期もありますが、ここ数年少しずつ増加傾向にあります。しかし電話通訳の依頼は、さらなるカーブを描いて増加してきています。外国人患者が受診する際、通訳が必要であるということは必要各所に浸透し、センターを信頼して通訳を依頼して下さる医療機関が増えていると感じています。

このような期待に応えるためにも、このセミナーに参加して、医療通訳を行っている方々から、学習方法、自己管理の方法、医療通訳システムの構築方法などを考える機会はとても貴重なものであったと思います。

せっかくの医療通訳者セミナー、関西在住の私のまわりでも興味を持つ方は何人もいらっしゃいました。しかしながら、交通費と参加費を払って実際に参加された方は少数でした。実際に医療通訳の収入で東京で行われるセミナーへの参加費用を賄える方はまだまだ少数ではないでしょうか。是非とも今後は各地でこのようなセミナーが開催され、医療通訳者自身が情報交換しながら実力を上げていくことができればと思います。

## ● センターホームページ「問診表等外国語版」のご案内

アドレスはこちら! ダウンロードもOK!

<http://amda-amic.com/>

外国人および医療機関向けに下記のような文書や書式を英語、ポルトガル語、スペイン語、中国語、日本語で作成 (「こころの健康を守るために」はタイ語、ベトナム語、ハングル、フィリピン語版もあり)。ぜひご利用下さい。



● Visiting Doctors 協力医訪問



## 東池袋駅前レディースクリニック 折戸医院 折戸征也 院長先生

今回は、東池袋駅から徒歩1分のところにある東池袋駅前レディースクリニック折戸医院を訪ねました。受付では折戸医院のぶたのキャラクター“Oriton”が出迎えてくれます。

折戸先生は日本語の他に英語、フランス語、中国語で診察されるのと伺っていますが、外国語で診察されている患者さんの中で、特に多いと感じられる国籍や出身地はありますか。

外国人患者さんの中ではフランス人が多いです。フランス大使館のウェブサイトにフランス語・英語が通じる医療機関名簿があり、そこに当院が掲載されていて、フランス語圏の方はそれを見て来ることが多いです。日本に何人も滞在していないようなフランス語圏アフリカの患者さんも来院されることがあり、感慨深いです。アメリカ大使館のウェブサイトにも掲載されるようになりましたが、英語圏の方はインターネットで検索されて来ることが多いです。

患者さんは旅行者が多いですか。

実は、旅行者は減多に来ません。患者さんは外国人でも健康保険証（社会保険か国民健康保険）がある方がほとんどで、保険証がない方はわずかです。

外国人の患者さんを診察される際に心がけていること、エピソードなどがありましたら教えてください。

英語で話す時、英語が母語の方、そうではない方と話し方を分けています。英語が母語ではなく、上手ではない方には平易な表現を用いる様、心がけています。学術用語はギリシャ語・ラテン語から派生しているものも多く、英語が母語でも分からない方が多いです。

文化の違いなのか、国によっては出産のぎりぎりまで病院に受診していないケースや出産が迫ってから相談電話をかけてくる妊婦がいます。当センターでも日本で出産する場合は、早く受診するよう説明しているのですが・・・。

国立国際医療研究センターにいた時に、国際保健に関する研修でベトナムの地方都市ホアビンに1週間滞在する機会に恵まれました。地方のヘルスセンターを訪問すると、3、4回しか妊婦健診をしないし、それでも多いほうだと言われます。ベトナムでもハノイやホーチミンだともっと回数が多いのかもしれませんが、日本ほど多くないのは確かでした。国によっては医師の数も限られていますし、先進国でも医療費が高い国もあります。妊婦健診を受ける回数は一概には言えません。結局は本人の意識次第だと思います。

多言語で対応されていること、男性の付き添いが可能なことなどから敷居が低く、患者さんにとって受診しやすい印象がありますが、このような診療に至ったきっかけなどありましたらお聞かせください。

自分自身、海外で生活したことがあります。もともと外国語学習が趣味であったこともあり、自分に対応できる言語に積極的に対応しようと思ったら、多言語対応になりました。勤務医ですと、医学的な専門分野でなければなかなか特色を打ち出せません。それも、開業しようと思った動機の一つです。

最近、女性医師が増えたこともあり、産婦人科診察においても、女性医師を希望する患者さんが増えています。他方、そういう外来の待合室、診察室は男性の付き添いを断ることが多いです。また、子供はだめと書いていない診療所でも、雰囲気的に子供がいるとひんしゆくを買うところもあります。私自身その逆の男性ということもあり、それなら、男性であれ、子供であれ、付き添いが出来る診療所を開きたいと思いました。

妊娠中の外国人旅行者が出血をしている場合、受け入れてくださる医療機関を探すのが難しいと感じます。

豊島区では、地域の基幹病院（東京都立大塚病院）が開業医と良好な関係にあり、緊急患者が発生したら、可能な限り受け入れて下さっています。ただし、産婦人科では、日本語が話せない患者さんについては、女性の通訳者が付き添わない限り診療を断っています。なので、当院で救急患者を診療しても、受け入れ病院を探すのに苦慮することはあります。もしかしたら地域によっては、開業医の先生自身は対応したいと思っても、基幹病院が受け入れに消極的なこともあるのかも知れません。その場合、開業医は診療を躊躇してしまうことはあるかも知れません。日本人としては困った外国人を助けるというのは大事だと思います。ただ、外国人の方も旅先で何か起こることも考慮して、控えるべき渡航は控えるべきだとも思います。実際、早産に至ってしまった、日本の保険証がない短期滞在中の外国人がいました。母体はそんなに医療費を要しませんでした（分娩費+a）、新生児の医療費は莫大になってしまい、結局、払いきれなかったという話も聞きました。

本日はありがとうございました。

<インタビューを終えて>

多言語WEBサイトや日本語・英語併記の手作りの薬袋、英語・フランス語・ベトナム語の医学用語対訳表など、多くの患者さんを受け入れようとしてされているのが印象的でした。また、「文化・習慣の違いから、日本人がよかれと思って、善意だけでは伝わらないことがある。こちらの善意を利用してしまうこともある。日本人の患者さんへの対応と公平性を保つ為にも言うべきことは言わなければ」というお話にひとりひとり真摯に向き合う先生のお心遣いを感じました。（センター東京H）

せっかくの機会なので、お昼休みのかなり長い時間を割いてインタビューにお答えくださいました。紙面の都合上すべてを掲載できませんが、外国人診療をしている先生方がどのようなことに直面されているのか、センターの日頃の業務では知る

ことができない一面を伺うことができました。折戸先生のお話から、患者さんに誠実に対応されている様子が伝わってきました。（センター東京Y）

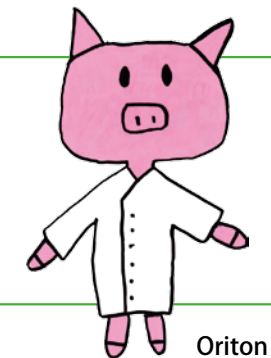
### 東池袋駅前レディースクリニック折戸医院

〒171-0014 豊島区東池袋4-3-6 石田ビル2階 TEL:03-6912-8567

月曜・木曜 9:30-11:30 / 13:30-17:00 / 17:00-20:00

金曜 9:30-11:30 / 13:30-17:00 土日祝 10:00-14:00

（診療時間が変更になることもあります。最新情報はホームページでご確認ください。）



Oriton



## せかいのこ と ば



### 小鳥と猫

英語で She eats like a bird (直訳すると「彼女は小鳥のように食べる」という表現がある。「小鳥のように食べる」とはつまり食べる量が少ないという意味なのだが、知人の鳥類学者に言わせれば、小鳥というものは木の実や虫など餌を探しては一日中食べているのであって、決して小食ではないらしい。

スペイン語圏では Él es un gato (直訳:「彼は猫だ」) と言うと、「ずるがしこい奴」や「裏切り者」などネガティブな意味で捉えられる国があれば、「器用な奴だ」と褒め言葉になる国もある。ポルトガル語の場合、Ele é um gato(直訳:「彼は猫だ」)は「かっこいい」「ハンサム」という表現だそうだ。

このように、動物が象徴する意味は文化によって様々で興味深い。そこで体の部位に関する言葉で動物の名前を含むものがあるか考えてみた。

### 動物の名前を含む体の部位

まず思いついた言葉は「犬歯」。中国語でも「犬齒」といい、英語 (canine teeth)、スペイン語 (canino)、ポルトガル語 (canino) のいずれもラテン語の caninus (犬) が語源となっている。最初に犬という言葉は歯の名前に含ませたのはどこの誰だったのだろうか。日本語では「犬齒」の同義語として「糸切り歯」という言い方もある。

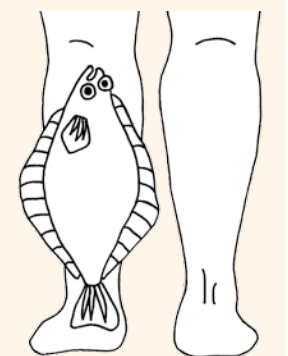
次に思いついたのは「ヒラメ筋」。筋肉の名前など解剖学の用語の多くが「解体新書」によって日本語に導入されたのは有名な話である。ドイツ人の解剖学者クルムス著の Anatomische Tabellen (解剖学図表) がオランダ語に訳され、そのオランダ語訳本が日本に持ち込まれ、それを杉田玄白らが日本語に訳した<sup>1)</sup>。調べてみるとドイツ語やオランダ語では「ヒラメ筋」に該当する筋肉の名前は soleus であり、シタピラメの学名は Solea solea である。しかし、更にこの魚の学名の語源を突き止めると、「靴底」もしくは「サンダル」という意

味を持つラテン語の solea に行きつく。場合によっては「ヒラメ筋」でなく「靴底筋」や「草履筋」という訳も考えられたのかもしれない。

### ポパイのねずみ

象牙質、蜘蛛膜、亀頭など他にも日本語で動物の名前がつく体の部位はいろいろあるのでインターネットで探してみると面白い。ところで、自分の出身国である中米のコスタリカでは上腕二頭筋のことを俗語で ratón (ねずみ) と呼ぶ。ポパイが腕に力を入れたときに盛り上がる筋肉のことだが、コスタリカ人にとっては盛り上がった所にネズミが入っているように見えるのだ。コスタリカの公用語はスペイン語だが、他のスペイン語圏で上腕二頭筋をねずみと言う国はないようで、逆に、同じく中米に位置するエル・サルバドルでは上腕二頭筋を gato (猫) と呼ぶらしい<sup>2)</sup>。

しかし、そもそも「筋肉」という意味の英語「muscle」やスペイン語「músculo」の語源はラテン語の mus (ねずみ) とギリシャ語の culus (小さい) を組み合わせた「小さなねずみ」という言葉だそうで、筋肉を見てねずみを連想するのはコスタリカ人だけではないのだ。



1. 岡三喜男 2004 “医学邦語と実証主義科学の原点『解体新書』の裏話”川崎医科大学附属病院広報第118号 (2004年11月15日発行)  
http://www.med-gakkai.org/kmsrd/kaitaishinsho.html (2016/9/6 アクセス)  
2. Mariana Rochin “¿Gato en el brazo?”  
http://cvc.cervantes.es/foros/leer\_asunto1.asp?vCodigo=27905  
3. Dechile.net “Etimología de músculo”  
http://etimologias.dechile.net/?musc.ulo (2016/9/8 アクセス)



● ご寄付のお願い

当センターは会費・寄付などにより運営されています。ご支援よろしくお願ひ申し上げます。

会員募集：センターの活動を援助して下さる会員の方を募集しております。

当センターは特定非営利活動法人 AMDA (本部岡山) とは別会計で、独立した会員制度を設けております。

AMDA 本部の会員とは別ですので、お間違えのないようお願いいたします。

【会員の種類と会費】 4月1日～3月31日までを1年度とする

年会費 個人 1口6,000円 団体 1口20,000円

賛助会員 学生 (高校、大学、専門学校生) 1口2,000円

ジュニア (中学生以下) 1口1,000円

個人会員および団体会員は半年ずつの分納が可能です。

4月から翌年3月までを1年間といたしますが、初年度

のみ、10月以降に賛助会員に加入される場合は、個人会

員は3,000円で、団体会員は10,000円でご入会いただけ

ます。賛助会員は何口でも結構です。

【寄付】 おいくらからでも結構です。

会員および寄付の振込先

郵便振替 00180-2-16503

加入者名 AMDA国際医療情報センター

\* 銀行振り込みご希望の方は、お手数ですがセンター東京 (Tel: 03-5285-8086) までご連絡ください。

消化器科・外科・小児科  
**小林国際クリニック**  
Kobayashi International Clinic  
小林国際医院

【診療時間】  
平日 午前9:15～12:00  
午後2:00～5:00  
土曜日 午前9:15～午後1:00  
休診日: 水、日、祝日

〒242-0005  
神奈川県大和市西鶴間3-5-6-110  
(小田急江ノ島線 鶴間駅下車徒歩4分)  
TEL: 046-263-1380  
<http://5884-international-clinic.com>

医療法人社団 慶泉会  
**町田慶泉病院**  
PAX INTRANTIBUS SALUS EXENTIBUS (旧町谷原病院)

外科・内科・整形外科  
肛門科・泌尿器科  
血液透析センター・療養病床  
回復期リハビリテーション  
訪問看護ステーション

〒194-0003  
東京都町田市南町田2-1-47  
TEL: 042-795-1668

内科・リハビリテーション科  
医療法人 隆福会  
**福川内科クリニック**

【診療時間】  
平日 午前9:30～12:00  
午後4:00～6:30  
土・日曜日 午前9:30～12:00  
休診日: 木曜日、祝日、2、4、5日曜日

〒537-0024  
大阪市東成区東小橋3-17-7  
TEL: 06-6974-2338

● 編集後記

オリンピック、パラリンピックのお陰で寝不足だという周囲の声をよそに、いつもと変わらぬ生活を送っています。見たいものを見て、読みたいものを読み、聴きたいものを聴く。しなければならないことは？今年度は、ありがたいことに講師のお仕事をいくつかいただき、いろいろな出会いがありました。毎度のこと、準備は大変でしたが。

協力医訪問先、折戸医院のキャラクター“oriton”に反応してし

まいました。わが町の神戸弁は「とん」で終わります。「何しとん？」(何をしているの?)、「何言っとん？」(何を言ってるの?) などなど。ごみの分別収集キャラクターのワケトンが、ルールなどを説明してくれるのです。「ちゃんと仕事しとんのか？」と言われぬように、しなければならないことをまず先にできるようになりたいものです。

(事務局 I)

編集発行：特定非営利活動法人 AMDA 国際医療情報センター

センター東京：〒160-0021 新宿区新宿歌舞伎町郵便局留 TEL 03-5285-8086 FAX 03-5285-8087

大阪オフィス：〒537-0024 大阪市東成区東小橋3-17-7 TEL 050-3598-7574

町田オフィス：〒194-0003 東京都町田市南町田2-1-47 TEL 042-799-3759

※郵便局留でメール便を送っていただくことはできませんので注意下さい。お問い合わせ、発送物はセンター東京(新宿)へお願いいたします。

発行責任者 特定非営利活動法人 AMDA 国際医療情報センター理事長 小林米幸

理事長受賞歴：外務大臣表彰(平成13年)、(財)アジア福祉教育財団より感謝状(平成13年)、

慶応義塾大学医学部三四会奨励賞(平成15年)、神奈川医学会学術功労賞(平成17年)

かながわレッドリボン賞(平成24年3月26日受賞式)

制作：株式会社インターブックス